

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

「新花巻図書館整備基本構想」の整備方針に基づき、より具体的なサービス計画の内容を各班で考えました。(黒枠内は基本構想で定めた方針)

※3班については4つの整備方針に割り振りまでできませんでしたので、P20~から別途記載しています。

※今回のまとめは、発表されたものを中心に記載していますが、その他の記載されないメモなども計画素案の作成に活用させていただきます。

(1) 施設に関すること

●ユニバーサルデザイン (バリアフリーへの対応)

子どもから高齢者、障がい者、あらゆる利用者がバリアフリーで動きやすい、機能的、効率的な動線に配慮し、利便性や安全性を重視した施設とします。

(1班)

- ・老若男女が家に居るような感覚で利用できる多空間な部屋がある図書館を目指します。

(2班)

- ・長時間利用を考慮してWi-fiを完備すると共に、休憩のできるカフェスペースや図書購入のできる周辺書店と提携したオンラインショップを設け本をすぐ注文できる環境を整えます。
- ・利用者の年齢に応じて本棚の高さを変え、利用者別の空間(キッズコーナー等)を計画して利用者層の向上に努めます。
- ・お年寄りや身障者等でも利用しやすいように通路幅を広くし、要所要所に休憩ができるよう椅子を多く配置します。

(4班)

- ・自然豊かでみんながくつろげる利便性の高い立地で、緑を感じる建築(緑色のカーテン、屋上庭園、中庭)を取り入れ足の向けたくなる施設を目指します
- ・広い閲覧スペース、車いすがすれ違える書架、状況に応じて家具の配置を変えられる利用者の利便性を重視する施設を目指します。
- ・本棚や机のデザインなどに花巻らしさを取り入れ自然豊かでみんながくつろげる利用者の利便性を図る施設を目指します。

(5班)

- ・市民に広く開かれた「知の宝庫」を目指す為、ロボットやタブレット等の最先端技術を用いて、利便性向上を目指します。
- ・電子図書館を開設し、蔵書にどこからでもアクセス出来るようにすることで多様なニーズに応えます。
- ・ロボット等が出来る仕事は任せることで、図書館職員の仕事能率向上、そしておもてなしの向上につなげます。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

(6班)

- ・トイレやエレベーターなどユニバーサルデザインの施設を使いやすい位置に設置します。

(7班)

- ・すべての障がい者(身体、資格、聴覚、精神、知的…)のニーズに対応する。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●十分なスペースを確保

開架スペースはもちろん、資料はわかりやすく利用しやすく配置し、くつろいで読書や資料調査ができるよう十分なスペースを確保します。また、学習ができるスペースや図書企画を展示できるコーナーなどゆとりのあるスペースを設けます。

(1班)

- ・老若男女が家に居るような感覚で利用できる多空間な部屋がある図書館を目指します。

(2班)

- ・座席数やフリースペースを十分に確保し、それぞれのお気に入りの場所が見つかる、居心地のよい図書館をつくります。
- ・長時間利用を考慮してWi-fiを完備すると共に、休憩のできるカフェスペースや図書購入のできる周辺書店と提携したオンラインショップを設け本をすぐ注文できる環境を整えます。
- ・自由に話ができるスペースと静かに勉強できるスペースとを分け、どんな利用にも対応できるようスペースを確保します。

(4班)

- ・自然豊かでみんながくつろげる利便性の高い立地で、緑を感じる建築（緑色のカーテン、屋上庭園、中庭）を取り入れ、足の向けたくなる施設を目指します。
- ・広い閲覧スペース、車いすがすれ違える書架、状況に応じて家具の配置を変えられる利用者の利便性を重視する施設を目指します。

(6班)

- ・児童・生徒への学習支援や求職者への就活支援、外国籍の人への学習・生活支援、スマホ・PC教室などの情報を提供し、支援を行う団体と提携します。
- ・トイレやエレベーターなどユニバーサルデザインの施設を使いやすい位置に設置します。
- ・会話やミーティングをしたり、子どもと利用できる個室スペースや、幅広い年齢の方に余暇やリラクゼーションのために利用できる感覚統合室(スヌーズレンルーム)を用意し、長時間滞在したくなる空間を提供します

(7班)

- ・児童書コーナーのほかに様々な体験ができる広いスペースをとる。
- ・絵画、音楽、舞踏…と本、多様な文化の交流ができる。
- ・立ち寄り、リフレッシュスペース(長居OK、居眠りOK)
- ・個人利用だけではなく、グループ学習にも対応できる設備

利用者のニーズに合わせて変更可能な空間作り

↓フレキシブルな活動に

可動式の机・仕切りの扉、ホワイトボード etc…

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●先人や郷土資料のスペースを設置

先人達を顕彰し次の時代を担う子どもたちにその精神を継承するためにも、先人資料と郷土資料の充実を図り、紹介するコーナーを設けます。

(1班)

- ・後世に受け継げるよう、他施設との連携を密に行い、市民の人材を活かし、地域ならではの資料の充実を図ります。

●子どもスペースを設置

声を出しても迷惑にならない子ども向けのスペースや、子どもたちが楽しく読書ができ、調べものができるようなスペースを設置します。

(1班)

- ・老若男女が家に居るような感覚で利用できる多空間な部屋がある図書館を目指します。

(2班)

- ・長時間利用を考慮して Wi-fi を完備すると共に、休憩のできるカフェスペースや図書購入のできる周辺書店と提携したオンラインショップを設け本をすぐ注文できる環境を整えます。

(4班)

- ・図書館+アルファの施設として、イベント広場、相談所、カフェ、子ども食堂など、どの人も安心して暮らせる環境をつくる施設を目指します。
- ・子どもが外でも遊べたり、雰囲気のあるところを設置することにより図書館を活気づけさせることができます。

(6班)

- ・児童・生徒への学習支援や求職者への就活支援、外国籍の人への学習・生活支援、スマホ・PC 教室などの情報を提供し、支援を行う団体と提携します。

(7班)

- ・子どもから高齢者まで、年代ごとにコーナーを作る。(各年代に向けて発信する)

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●防災、防犯対策、環境へ配慮

災害に対応できる適切な耐震性を確保するとともに、防犯対策にも配慮した施設設備とします。また、花巻市環境基本計画に基づき、自然エネルギーの活用を検討し照明器具や冷暖房設備等省エネルギーの施設とします。

(4班)

- ・災害に対応できるスペースがあるなど用途に応じた空間分けをすることにより、利用者が安心する空間がある施設を作ります。

●必要な駐車スペースを確保

本市は市域も広く自動車の利用者が多いことから、必要な駐車スペースの確保に努めるとともに、車いすや障がい者の利用にも配慮したスペースを確保します。

(2班)

- ・十分な広さの駐車場を整備し、立体駐車場の場合は、連絡通路を設置するなど利用者の利便性に努めます。
- ・また、駐車場にはイベント時に自由に利用できる場所を用意しておき、キッチンカーやマルシェなど地域と連携したイベントを開催します。

(5班)

- ・広い駐車場のみならず公共機関と接続しアクセスしやすい立地とします。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●施設の併設等の検討

市民のくつろぎと交流の場となるよう飲食スペースの設置など複合的な施設の併設も検討します。

(2班)

- ・長時間利用を考慮して Wi-fi を完備すると共に、休憩のできるカフェスペースや図書購入のできる周辺書店と提携したオンラインショップを設け本をすぐ注文できる環境を整えます。

(4班)

- ・図書館+アルファの施設として、イベント広場、相談所、カフェ、子ども食堂など、どの人も安心して暮らせる環境をつくる施設を目指します。

(5班)

- ・あらゆる世代の市民が集い、学び、交流し、明るい地域を作るために、「図書館」の存在を大きな機会、チャンスと捉え、教育機関、産業、文化、地域団体と連携し、その多様性を発信・発展する、チャレンジショップなどの開かれた「場」を提供します。

(6班)

- ・児童・生徒への学習支援や求職者への就活支援、外国籍の人への学習・生活支援、スマホ・PC 教室などの情報を提供し、支援を行う団体と提携します。
- ・誰もが利用できるギャラリースペース、音楽スタジオ、ステージやマーケットとして使える広場、コワーキングスペース(会議室、wi-fi、プリンタ等完備)を設置します。
- ・館内に物販を行う店舗を併設し、文具や図書館オリジナルグッズ、雑貨の販売と書籍の注文を行えるようにします。
- ・様々な特性のある人が利用できて、チャレンジショップとしての機能を持ったカフェを併設します。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

(1) 施設に関すること ※新しく出された項目

● 「ティーンズ向けスペース」

(1班)

- ・老若男女が家に居るような感覚で利用できる多空間な部屋がある図書館を目指します。

● 「花巻らしさ」

(2班)

- ・SLが見える一番のスポットとして図書館を整備し、賢治の作品をモチーフとした花巻らしい図書館をつくります。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

(2) 蔵書資料に関すること

●広い分野の収集

高度化する市民ニーズに対応するため、生活や暮らし、趣味に関わる資料のみならず、専門的な資料や地域の資料など広い分野の資料収集に努めます。

(2班)

- ・資格や進路に関係する資料や芸術関係などの実用的な本、ライトノベルや雑誌など世代のニーズに合わせた本を設置します。
- ・利用者が選書した本を紹介するスペースを設置して、利用しやすく資料をリクエストしやすい環境を整えます。

(4班)

- ・利用者の必要な色々な資料（ゲームやマンガなども）を欲しいに優劣をつけず、バラエティ豊かな蔵書を構築する図書館を目指します。

(5班)

- ・観光・市民生活・産業・歴史等「花巻市」を知るための情報の収集・提供に努め図書館から広がる花巻市を実現します。
- ・市民に広く開かれた「知の宝庫」を目指す為、ロボットやタブレット等の最先端技術を用いて、利便性向上を目指します。
- ・電子図書館を開設し、蔵書にどこからでもアクセス出来るようにすることで多様なニーズに応えます。
- ・ロボット等が出来る仕事は任せることで、図書館職員の仕事能率向上、そしておもてなしの向上につなげます。

(6班)

- ・市民活動、イベント、観光情報など市民の生活に役立つ情報を収集し、チラシ、パンフレット、SNS、広報、図書館だより等様々な媒体で広く発信します。
- ・児童・生徒への学習支援や求職者への就活支援、外国籍の人への学習・生活支援、スマホ・PC 教室などの情報を提供し、支援を行う団体と提携します。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●先人や郷土資料を充実

先人や郷土に関する資料、本市行政資料など、本市に関わる資料の総合的な管理収集保存に努めます。

(1班)

- ・後世に受け継げるよう、他施設との連携を密に行い、市民の人材を活かし、地域ならではの資料の充実に努めます。

(2班)

- ・花巻へ訪れた旅行者が立ち寄って多くの偉人をワンストップで見ること・知ることを可能とします。
- ・宮沢賢治記念館・新渡戸記念館・高村光太郎記念館・博物館との役割分担を図り、中央図書館として、宮沢賢治関連資料は全て管理収集するよう努めます。

(4班)

- ・利用者の必要な色々な資料（ゲームやマンガなども）を欲しいに優劣をつけず、バラエティ豊かな蔵書を構築する図書館を目指します。

(6班)

- ・専門的な資料・データ・普段見ることができない貴重な資料が保存でき、アクセスがしやすいよう、デジタル化して提供します。

(7班)

- ・「賢治さん香るまちづくり」の市の方針に沿い、賢治や偉人達の紹介、講座、イベントを日常的(定期的)に行い、全国の賢治の学校の中心的存在。市民が編さんを行う花巻市史・地域史作りを支援して、歴史に親しむ図書館になる。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●視聴覚資料や電子資料の活用

DVD等による視聴覚資料のみならずデジタルデータ資料の保存活用、インターネットを活用したデータベースなど新しい電子サービスに対応できる施設を目指します。

(5班)

- ・市民に広く開かれた「知の宝庫」を目指す為、ロボットやタブレット等の最先端技術を用いて、利便性向上を目指します。
- ・電子図書館を開設し、蔵書にどこからでもアクセス出来るようにすることで多様なニーズに応えます。
- ・ロボット等が出来る仕事は任せることで、図書館職員の仕事能率向上、そしておもてなしの向上につなげます。

(6班)

- ・専門的な資料・データ・普段見ることができない貴重な資料が保存でき、アクセスがしやすいよう、デジタル化して提供します。
- ・読み上げ機能や拡大機能を含む障がいがあっても誰でも閲覧できる形で提供します。

(3) 運営に関すること

●利用しやすい開館時間

市民の就労形態やライフスタイルが多様化している中で、多くの市民が利用できるように開館時間を設定するとともに、休館日も同様の視点で検討します。

(1班)

- ・学生にはテスト期間にあわせる、社会人は勤務時間にあわせるなど、市民のニーズにあわせた利用しやすい開館時間に配慮します。

(2班)

- ・開館時間を朝6時から夜22時までとして様々な市民が利用しやすい「日本一」の開館時間を実現します。具体的には9時から17時までは図書館司書が対応し、それ以外の時間は職員が不在でも利用者自身で利用できるような環境を整えます。
- ・休館日0を目指す為に、蔵書点検を深夜の外部委託を行ない、本の保持の為セキュリティを強化します。

(5班)

- ・24時間対応の予約本の受け取り返却や、夜間対応できる学習スペースを設けます。
- ・外国人の交流スペースの設置や情報提供など多文化共生に努めます。
- ・市民に広く開かれた「知の宝庫」を目指す為、ロボットやタブレット等の最先端技術を用いて、利便性向上を目指します。
- ・電子図書館を開設し、蔵書にどこからでもアクセス出来るようにすることで多様なニーズに応えます。
- ・ロボット等が出来る仕事は任せることで、図書館職員の仕事能率向上、そしておもてなしの向上につなげます。

(7班)

- ・図書館で朝活、仕事帰りのリフレッシュができる。(明かりを落とした図書館でもよい)

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●利用者の視点

市民ニーズを把握するため、市民の意見を聞く機会を設けるとともに、図書館協議会等において協議しながら利用者の視点に立った運営に努めます。

(2班)

- ・資格や進路に関係する資料や芸術関係などの実用的な本、ライトノベルや雑誌など世代のニーズに合わせた本を設置します。
- ・利用者が選書した本を紹介するスペースを設置して、利用しやすく資料をリクエストしやすい環境を整えます。
- ・開館時間を朝6時から夜22時までとして様々な市民が利用しやすい「日本一」の開館時間を実現します。具体的には9時から17時までは図書館司書が対応し、それ以外の時間は職員が不在でも利用者自身で利用できるような環境を整えます。
- ・休館日0を目指す為に、蔵書点検を深夜の外部委託を行ない、本の保持の為セキュリティを強化します。
- ・一度に借りられる冊数は10冊とし、調べ学習などたくさん借りたいときには申請に応じて、上限を撤廃します。
- ・座席数やフリースペースを十分に確保し、それぞれのお気に入りの場所が見つかる、居心地のよい図書館をつくります。
- ・長時間利用を考慮してWi-fiを完備すると共に、休憩のできるカフェスペースや図書購入のできる周辺書店と提携したオンラインショップを設け本をすぐ注文できる環境を整えます。
- ・自由に話ができるスペースと静かに勉強できるスペースとを分け、どんな利用にも対応できるようスペースを確保します。
- ・利用者の利便性を考え、あらゆる交通機関で来館しやすいよう関係機関と連携していきます。
- ・観光客などが利用しやすいよう賢治記念館など市内の文化施設のアクセスを高めるため、循環バスを整備します。

(4班)

- ・出張図書館（駅、公共の場、振興センター、ト・ヨ・カド）を開設し、ミニ文庫や図書館の利用案内を広報することにより利用者の入り口が増えることを目標とする施設とします。
- ・自然豊かでみんながくつろげる利便性の高い立地で、緑を感じる建築（緑色のカーテン、屋上庭園、中庭）を取り入れ足の向けたくなる施設を目指します
- ・広い閲覧スペース、車いすがすれ違える書架、状況に応じて家具の配置を変えられる利用者の利便性を重視する施設を目指します。
- ・乳児を抱えた母親が授乳できるスペースなど、各年代用途に応じた空間分けをすることにより、利用者の増加が見込まれる。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

(6班)

- ・読み上げ機能や拡大機能を含む障がいがあっても誰でも閲覧できる形で提供します。
- ・児童・生徒への学習支援や求職者への就活支援、外国籍の人への学習・生活支援、スマホ・PC 教室などの情報を提供し、支援を行う団体と提携します。
- ・誰もが利用できるギャラリースペース、音楽スタジオ、ステージやマーケットとして使える広場、コワーキングスペース(会議室、wi-fi、プリンタ等完備)を設置します。
- ・館内に物販を行う店舗を併設し、文具や図書館オリジナルグッズ、雑貨の販売と書籍の注文を行えるようにします。
- ・障がいのある方とのコミュニケーションを補助する ICT 機器を提供します。
- ・様々な特性のある人が利用できて、チャレンジショップとしての機能を持ったカフェを併設します。
- ・会話やミーティングをしたり、子どもと利用できる個室スペースや、幅広い年齢の方によかやリラクゼーションのために利用できる感覚統合室(スヌーズレンルーム)を用意し、長時間滞在したくなる空間を提供します。

(7班)

- ・生涯を図書館と関わる。
- ・ライフワークを通して次世代・未来への芽を育む。
- ・「賢治さん香るまちづくり」の市の方針に沿い、賢治や偉人達の紹介、講座、イベントを日常的(定期的)に行い、全国の賢治の学校の中心的存在。市民が編さんを行う花巻市史・地域史作りを支援して、歴史に親しむ図書館になる。
- ・専門施設との連携を充実させサポートする。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●図書館ボランティアとの協働

市民の意見を反映しつつ充実したサービスを提供するためにはボランティアとの協働が不可欠です。図書館ボランティアとの協働によるサービス提供に努めます。

(2班)

- ・学校図書館には無い資料を図書館や他の施設から貸出し、授業に活用してもらいます。また、図書館のさらなる利用増加につなげるため、学校図書館で貸出や利用の仕方、マナー等を覚えてもらいます。
- ・学校司書を一校に1人配置します。学校司書を配置することで、児童・生徒の本に対する興味を引き出し、教職員の授業補助、図書ボランティアの活動をスムーズにし、図書館司書や地域のボランティアとの連携を深めます。
- ・授業や長期休暇等の調べ学習に対応するデータブックリストやパスファインダーを学校司書と協力し、作成します。

(4班)

- ・図書館ボランティアが、自分の得意分野（案内、読み聞かせ、子供の相手など）で参加し、図書館に関心を持つような場を提供します。

(5班)

- ・あらゆる世代の市民が集い、学び、交流し、明るい地域を作るために、「図書館」の存在を大きな機会、チャンスと捉え、教育機関、産業、文化、地域団体と連携し、その多様性を発信・発展する、チャレンジショップなどの開かれた「場」を提供します。

(7班)

- ・専門施設との連携を充実させサポートする。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●職員体制の充実

司書資格を持つ職員を計画的に配置するなど、職員体制の充実を図ります。また、専門的な知識を深め多様な年代、レファレンスサービス（相談・支援）に対応できるよう研修などにより職員の育成に努めます。

（1班）

- ・学生にはテスト期間にあわせる、社会人は勤務時間にあわせるなど、市民のニーズにあわせた利用しやすい開館時間に配慮します。

（4班）

- ・正規の司書、分野ごとの専任司書、また、専門技術を持った職員を充実し、2交代制などで開館時間を長くすることによるサービス向上を目指します。
- ・多様な方が利用しやすくするため、手話、外国語ができる職員を育成できる図書館を目指します。

（7班）

- ・選書などを専門家(司書)に相談できる。

（3）運営に関すること ※新しく出された項目

●「地元企業・団体との協働」

（1班）

- ・職業体験やチャレンジショップを開催するなど若者と地元企業とをつなげ地域活性化への発展を目指します

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

(4) サービスに関すること

●レファレンスサービス（相談・支援）の充実

利用者の調査研究、課題解決に求められる資料や情報を的確に提供できるようにレファレンスサービスの充実に努めます。

(4班)

- ・花巻のことを知りたい調べたい時、市で発行している広報・雑誌のバックナンバーや、様々な専門機関・団体の情報もあることにより、人のつながりができ定期的に人が集まる図書館を目指します。

(5班)

- ・観光・市民生活・産業・歴史等「花巻市」を知るための情報の収集・提供に努め図書館から広がる花巻市を実現します。
- ・24時間対応の予約本の受け取り返却や、夜間対応できる学習スペースを設けます。
- ・外国人の交流スペースの設置や情報提供など多文化共生に努めます。
- ・市民に広く開かれた「知の宝庫」を目指す為、ロボットやタブレット等の最先端技術を用いて、利便性向上を目指します。
- ・電子図書館を開設し、蔵書にどこからでもアクセス出来るようにすることで多様なニーズに応えます。
- ・ロボット等が出来る仕事は任せることで、図書館職員の仕事能率向上、そしておもてなしの向上につなげます。

(7班)

- ・選書などを専門家(司書)に相談できる。

●中央図書館としての機能

新花巻図書館は、市内全館の中央図書館としての役割を担う施設として、各館のサービスや事業の調整を図るとともに、学校図書館や全国の図書館との図書館ネットワーク連携の中核を担います。

(2班)

- ・学校図書館には無い資料を図書館や他の施設から貸出し、授業に活用してもらいます。また、図書館のさらなる利用増加につなげるため、学校図書館で貸出や利用の仕方、マナー等を覚えてもらいます。
- ・学校司書を一校に1人配置します。学校司書を配置することで、児童・生徒の本に対する興味を引き出し、教職員の授業補助、図書ボランティアの活動をスムーズにし、図書館司書や地域のボランティアとの連携を深めます。
- ・授業や長期休暇等の調べ学習に対応するデータブックリストやパスファインダーを学校司書と協力し、作成します。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●情報発信を強化

利用者の拡大を図るために、若い世代やビジネスマンなどにも利用されるような図書企画に積極的に取り組み、広く情報発信に努めます。

(1班)

- ・家にも図書館にも、スマホやタブレットを利用して電子書籍等の資料の閲覧ができる設備をもうけます。

(2班)

- ・館内案内のわかりやすい検索機・タブレットを設置します。また、情報コーナーを設置して、本や図書館に関する情報の他、地域（市民・民間）イベント・文化施設関連の情報発信の強化に努めます。

(4班)

- ・出張図書館（駅、公共の場、振興センター、休・ヨカド）を開設し、ミニ文庫や図書館の利用案内を広報することにより利用者の入り口が増えることを目標とする施設とします。

(5班)

- ・観光・市民生活・産業・歴史等「花巻市」を知るための情報の収集・提供に努め図書館から広がる花巻市を実現します。
- ・24時間対応の予約本の受け取り返却や、夜間対応できる学習スペースを設けます。
- ・外国人の交流スペースの設置や情報提供など多文化共生に努めます。

(6班)

- ・市民活動、イベント、観光情報など市民の生活に役立つ情報を収集し、チラシ、パンフレット、SNS、広報、図書館だより等様々な媒体で広く発信します。
- ・児童・生徒への学習支援や求職者への就活支援、外国籍の人への学習・生活支援、スマホ・PC教室などの情報を提供し、支援を行う団体と提携します。

(7班)

- ・子どもから高齢者まで、年代ごとにコーナーを作る。(各年代に向けて発信する)
- ・「賢治さん香るまちづくり」の市の方針に沿い、賢治や偉人達の紹介、講座、イベントを日常的(定期的)に行い、全国の賢治の学校の中心的存在。市民が編さんを行う花巻市史・地域史作りを支援して、歴史に親しむ図書館になる。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

●新たなシステムへの対応

インターネット等を使った検索や予約、閲覧など、新たな図書情報システムに対応できるように努めます。

(1班)

- ・多くのニーズに合わせて、オンラインでの利用ができるように高性能な Wi-Fi を設置します。
- ・家においても図書館においても、スマホやタブレットを利用して電子書籍等の資料の閲覧ができる設備をもうけます。

(2班)

- ・館内案内のわかりやすい検索機・タブレットを設置します。また、情報コーナーを設置して、本や図書館に関する情報の他、地域（市民・民間）イベント・文化施設関連の情報発信の強化に努めます。
- ・一度に借りられる冊数は10冊とし、調べ学習などたくさん借りたいときには申請に応じて、上限を撤廃します。

(4班)

- ・重度障害者の方や妊婦さんなど弱い立場の方々やその介護者が、先進的な機器や設備、広いスペースでやすらぎ、リフレッシュできる環境を提供する図書館を目指します。

(6班)

- ・専門的な資料・データ・普段見ることができない貴重な資料が保存でき、アクセスがしやすいよう、デジタル化して提供します。
- ・読み上げ機能や拡大機能を含む障がいがあっても誰でも閲覧できる形で提供します。
- ・障がいのある方とのコミュニケーションを補助する ICT 機器を提供します。

(7班)

- ・件名検索が可能なシステム

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

(4) サービスに関すること ※新しく出された項目

● 「地域との連携」

(2班)

- ・学校図書館には無い資料を図書館や他の施設から貸出し、授業に活用してもらいます。また、図書館のさらなる利用増加につなげるため、学校図書館で貸出や利用の仕方、マナー等を覚えてもらいます。
- ・学校司書を一校に1人配置します。学校司書を配置することで、児童・生徒の本に対する興味を引き出し、教職員の授業補助、図書ボランティアの活動をスムーズにし、図書館司書や地域のボランティアとの連携を深めます。
- ・授業や長期休暇等の調べ学習に対応するデータブックリストやパスファインダーを学校司書と協力し、作成します。
- ・IT や農業、福祉など多分野にわたる民間企業とコラボしたイベントを開催したり、連携してシステムを構築します。
- ・また、若者が地元で働く将来を考えられるよう、企業や市とコラボしたイベントを開催します。
- ・利用者の利便性を考え、あらゆる交通機関で来館しやすいよう関係機関と連携していきます。
- ・観光客などが利用しやすいよう賢治記念館など市内の文化施設のアクセスを高めるため、循環バスを整備します。
- ・また、駐車場にはイベント時に自由に利用できる場所を用意しておき、キッチンカーやマルシェなど地域と連携したイベントを開催します。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

(3班)

①本・資料・情報「古・新あらゆる情報 正しい情報に早く十分にアクセスできる」

B-1、B-2、B-3

- ・自由に利用できる ICT 技術などを活用した情報・電子書籍を備えた古・新あらゆる情報につながる新たな時代の図書館とします。
- ・外部情報との連携を含め、電子書籍化により古い本を保存整理し、すぐにアクセスできる。
- ・市内情報、リアルな書籍も取り揃え、海外文献も翻訳されている。
- ・ICT、デジタル、電子書籍、あらゆる情報アクセス手段、市内外、海外情報、資料保存、「新たな時代の図書館（デジタルとアナログ、両方使いこなし、時代の変化に対応できる余白とスキル）」

②本・資料・情報「宮沢賢治観を表現した日本一の情報発信、収集」

B-1、B-2、B-3

- ・賢治専門のレファレンス司書
- ・賢治、資料の収集の充実(世界中の資料、研究書、批判本、アニメ漫画)賢治ライブラリー
- ・賢治関連の資料を観光資源（従来の消耗型観光ではなく、個人のかかわり方の多様性を保障した新しい発見や出会いの資源）として活用する、町づくり、人づくりの循環を生み出していく拠点に。

③運営・サービス「人材、顔となる人が優秀であること（スーパー人材、民間から）」

C-4

- ・職員体制の充実
- ・花巻市の図書館整備プロジェクトは図書館法に基づく通常の図書館ではなく、同法 13・15 条に記述ある“特定図書館”のような施設を指向している気配が濃厚である。このような形態の図書館はややもすると市長の胸先三寸の独善な図書館運営に陥りやすい危険性を孕む。そのような理不尽な圧力に屈せず公立図書館本来の目的や機能を全うする為には上意下達文化に毒された公務員でなく、カリスマ性を持つ圧倒的な力量を民間人から館長を起用する必要がある。また館長を支えるスタッフにも超人材を全国に広く求めて、利用者である花巻市民が理想とする図書館を実現せねばなるまい。

④運営・サービス「食と健康につなげられるサービス（おにぎりカフェ）」

A、D-3、D-4

- ・作りたて(あたたかい)のおにぎりなどの食べものを提供する店舗を設置し、利用者の食と健康(栄養管理に基づいた)をサポートします。
- ・地域の熱意ある高齢者や農家さんの協力を得ての社会参画、新たなコミュニティで心身の健康を啓発。コンビニの添加剤防腐剤食品から離脱。地域の食農の維持向上。朝昼夜、3度の食を大切にしてい暮らし。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

⑤建物・環境・施設・家具「場所は柔軟に選定（新興跡地）、アクセスの質も大事（車、歩行者、自転車、公共交通）、（行き返りの道も）楽しく安全」

A

- ・新興跡地は花巻城跡に位置する由緒ある場所。今は“夢の跡”。この地の有効利用を破棄した上田市政の“負の遺産”の復元を。往時の「東公園」がその適地
- ・感染症時代を生きる！社会的距離や快適で安全な密度が変わる、新しい物差しになる時代（鉄道が今後どうなるか）
- ・出会いの場⇄賑わい創出の限界

⑥建物・環境・施設・家具「防音の個室（グループ・単独両方）、お話も、静かさも」

A-7

- ・人数や用途に縛られず、様々なニーズに柔軟に対応できる約 20 m²の防音、電源、防火、水道、ガスつき(有料)、電源、防火を複数（10 か所くらい）つくります。
- ・そこで音楽、調理実験（新しい健康な食の研究）を時間を気にせず存分にやりたい。

⑦建物・環境・施設・家具「外との関連性のある、人と本が光る、美しい開放的で洗練された配置、配架、通路、照明」

A 全部、C3、D-2、D-3、D-4

- ・木陰と芝生（緑地はオガール広場並み）とテラス（Wifi、電源、給排水、照明など緑地との活動向け）と室内が一体でつながり、四季の美しさを感じながら本と人を照らす光、見通し、外構と室内を花巻ストーリーあるデザインにし、夜も冬も美しく。（死角がないこと、圧迫感がないこと）
- ・本は集中すべきところに集中（広すぎない）、ワンフロア。人の滞在箇所はたくさん。
- ・子どものための施設（保育園や産前産後ママ）、行政書庫と併設。
- ・花巻ストーリーとは：山と森と川に支えられた人の営み、歴史、文化、田園、たくましさと大らかさ、勤勉さのある花巻の人々
- ・美しさ、省エネ、エコは必須。これらが創造的活動のもと。それがないと続かない。

⑧建物・環境・施設・家具「成長する有機体であること」

A、B、C、D

- ・賢治は自らを「仮定された有機・交流電燈」と表現している。賢治本を一堂に集めることによって、「イーハトーブ」図書館も永遠に進化し続ける。そんな図書館を。

としょかんワークショップ 一般編 第4回 (10.11) ワークまとめ

前回のワークショップで出された「重点」に引き寄せてサービス計画・内容を文章化

⑨新規「花巻市民だけでなく、来訪者、近隣の方にとっても有意義に滞在できる場」

A

- ・十分なスペースと多様な活動（1階：勉強、カフェ、物販、自由フロア、2階：本、3階：eスポーツ、ガラス張り展望でS Lや街の風景など）
- ・花巻市民だけでなく、花巻にくる他市の人が勉強・滞在できる場所を増やす。若い世代だけでなく、高齢者も。安心して（集中して）いられる場所。Wi-Fi、エレベーター、個人スマホでの検索アプリ、貸出タブレット
- ・いろんな人の流入で新しい出会い、発見、刺激が生まれ、成長できる図書館